

研究実施のお知らせ

2026 年 4 月 23 日 ver.1.0

研究課題名

膝関節温存手術における長期成績のレトロスペクティブ解析と
自家培養軟骨移植術併用の有効性評価

研究の対象となる方

2000 年 4 月から 2016 年 4 月の間に島根大学医学部附属病院で膝周囲骨切り術、骨軟骨移植術、自家培養軟骨移植術、あるいはこれらの併用手術を受けられた方。

研究の目的・意義

日本国内には現在約 1000 万人の変形性膝関節症の方がおられると想定されています。膝関節の軟骨損傷は、変形性膝関節症への進展の要因となる重要な病態で、これらの治療が変形性膝関節症の進行を防ぐために重要と言えます。現在国内では軟骨損傷に対する手術としては、関節温存手術としては、骨軟骨柱移植術、自家培養軟骨移植術といった軟骨損傷を直接治療する方法や、膝周囲骨切り術という膝関節のアライメントを是正することで、軟骨損傷部の症状を緩和する手術法が選択されることが主流です。またこれらの手術法が併用される場合もあります。

一方でこれらの手術の長期成績のエビデンスはまだ十分とはいえません。本研究では当院で実施した手術症例を後ろ向きに調査し、これらの手術の長期的な効果を検証することを目的とします。さらには、これらの手術の併用、特に自家培養軟骨移植術と膝周囲骨切り術の併用がさらなる臨床成績の向上につながらないかを調査します。

本研究で、関節温存手術の長期成績を明らかにし、さらにその成績向上につながる因子が明らかになれば、膝関節軟骨損傷に苦しむ患者さんに大きく貢献することができます。

研究の方法

通常の診療で必須な情報としてカルテに記録されている情報（臨床スコア、年齢、性別、身長、体重、BMI、病歴、身体診察所見、単純 X 線像、CT、MRI、手術方法、人工関節手術への移行状況）を使用します。術前および術後 10 年までの臨床成績を評価して、関節温存手術の術後成績を明らかにします。さらにこれらの因子を詳細に解析し、長期成績向上につながる因子を見出します。収集したデータは、島根

大学医学部整形外科学講座内の外部から容易にアクセスできない PC に保管し、外部への持ち出しは行いません。研究対象者の個人情報、個人情報保護の観点から氏名、患者 ID を削除した上で取り扱います。研究対象者の識別は研究用に付与する識別番号によって行います。

研究の期間

2026 年 06 月 24 日～2027 年 2 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部整形外科学講座 多久和 紘志

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026 年 11 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいこととお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部整形外科学講座 助教 多久和 紘志

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2242 FAX 0853-20-2236